

## 令和元年度第3回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第3回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見を頂きました。

### 1 日時及び場所

令和元年12月12日（木）13：00～15：00

近畿中国森林管理局2階第1会議室

### 2 議題

- （1）近畿中国局管内の木材需給動向について
- （2）国有林材供給調整の必要性について
- （3）その他

### 3 議事概要

#### 《検討結果》

住宅関係では、近畿圏の9月新設住宅着工戸数は2ヵ月連続で減少した。利用関係別では、持家が14ヵ月連続で増加するなど好調に推移している。貸家は大幅に減少した。分譲住宅はマンションと戸建てが堅調に推移している。

合板関係では、令和元年10月に発生した台風19号によって長野県が大きな被害を受けた影響で、カラマツ合板用材の入荷量が大幅に減少している。

チップ関係では、山元で移動式チップパーにより粉碎してチップ化し、木質バイオマス発電所へ直送する業者が増えてきている。

原木関係では、スギは春先の飽和状態が夏場に一段落したが、秋からの出材も順調で安値安定状態が継続し、年末以降も安定した出材により弱含みで推移すると予想される。ヒノキは夏場の急激な伐採量の減少から9月後半より価格が上昇傾向にあり、出材量も限られていることから底堅いと予想される。

以上、現在の木材需給動向について検討した結果、国有林材の供給調整の必要性は認められない。

## 〈主な情報、意見等について〉

### ○国産材の需給動向

- ・岡山県内で 2020 年 6 月から稼働を予定している木質バイオマス発電所では、本年 10 月から原木の集荷を開始した。
- ・兵庫県内では、原木市場を經由せず、山元で移動式チップパーにより粉碎してチップ化し、木質バイオマス発電所へ直送する素材生産業者が増えている。
- ・奈良県内の原木市場では、年末に向けて出材量は安定し、暖冬予想もあるため、積雪の影響が無ければ、年明けもスギ材を中心に安定的な出材が見込まれると予想される。並材に関しては、スギとヒノキで価格推移が異なり、スギは春先以降の飽和状態が夏場に一段落したが、秋からの出材も順調で安値安定状態が継続した。ヒノキは夏場の急激な伐採量の減少から 9 月後半より価格は上昇傾向にある。年末以降もスギは安定した出材により弱含み、ヒノキは出材量も限られているため底堅いと予想される。下級材はバイオマス需要が安定しており、新たな木質バイオマス発電所も原木の集荷を始めているので、さらにしっかりした価格水準が継続するものと予想される。スギの高齢級材は色の良し悪しで価格差が大きく、特に黒芯材は値がつかない状況も見受けられ、低調に推移している。
- ・石川県内の合板工場では、台風 19 号によって長野県に大きな被害を受けた影響で、合板のフェースバックに使用するカラマツ材の入荷量が大幅に減少したため、代替材として米材等を入荷して対応している。

### ○その他

- ・岡山県では、森林経営管理制度の推進に向けて、市町村職員向けの研修を重点的に取り組んでいる。また、森林環境譲与税を活用して、森林クラウド（森林資源情報や路網情報等）のデータ整備を進めている。
- ・今後、消費増税の反動がどれほど出てくるか見通せないが、住宅着工は昨年から今年にかけて盛り上がりが大きくなかったため、大きく下回るというよりもズルズルと下降していく状況が考えられる。従って、木材市況が大きく変化することはないと予想される。
- ・人工林材の大径化が進んでいるが、大径材に対応した設備を持っている製材所等が少なく用途に限られるため、今後、大径材をどう使っていくか検討が必要である。